

「スルガ銀行株式会社様」 スルガ銀行

●所在地/静岡県沼津市通横町23 ●TEL/055-962-0080

●mcAccess使用状況/mcAccess e (2008年5月導入・管理移動局4台/移動局117台利用)

災害時の円滑な通信体制を確保するために mcAccess e を導入。 厳しい条件下でも業務を継続。お客様の便宜を図ります。

広域の全店舗をクリアな音声で結び、情報収集&指示伝達。他の通信手段との補完を可能とする情報ネットワーク構築をめざします。



「災害対策には複数の通信手段を準備することが大切」と語る経営企画部総務の杉山恭義さん。

無線従事者の配置が不要など、メリットの多さから災害対策用に mcAccess e を導入。

スルガ銀行本店は、伊豆半島の西の根元、駿河湾に臨む良港として名高い静岡県沼津市にあります。創業110年以上の歴史ある地方銀行として知られる一方で、多くの

支店が静岡・神奈川の地銀激戦区にあり、リテール（個人客対象の業務）重視、インターネットバンキングの導入など、ITを駆使した先進性と独自性のある経営を展開しています。

営業基盤となる地域は、かねてより東海地震の発生が予測され、同銀行においても大規模災害への備えに余念がありません。2008年5月、災害発生時の通信体制を強化、充実させるため、mcAccess e を導入し、緊急時防災用通信システムを構築しました。



スルガ銀行沼津本店外観。

無線の利用は、かつて業務用無線を店舗に設置、車両に搭載して現金輸送時の連絡に使っていた時代に遡ります。その後、この業務を外部委託するようになると、業務用無線はもっぱら災害時連絡用に。やがて携帯電話が普及し始める中で、業務用無線では「遠距離の通話が不可能」「親局と子局の通話のみである」など、機能に物足りなさも感じていました。そこで、これに替わる災害時通信システムとして検討を始めたのが、以前より提案のあった mcAccess e でした。「無線従事者を配置する必要がなく、電波法の手続きや関連する事務負担も軽減されるなど、多彩なメリットが mcAccess e 導入の決め手となりました」。

災害発生時は本部統括のもと状況確認から指示伝達まで円滑に行えるシステムが完成。

銀行には、災害発生時に資金の流れや決済をストップさせないという金融機関としての大切な使命があります。導入時は、BCP（事業継続計画）の重要性が叫ばれた時期でもあり、全店舗へ導入することになりました。2008年8月には、新設された札幌、仙台、福岡、各市の3店舗にも増設。「広域でクリアな音

質が確保できる」「秘話性に優れる」など mcAccess e の使い勝手のよさが改めて評価された結果、災害発生時には本部統括のもと、全国ネットで被害状況の確認、情報の共有、支援の指示伝達などを円滑に行える体制となりました。今後、同銀行の他の通信手段との連携や補完を可能とすることをめざし、完成度を高めていくそうです。



本店の災害対策本部から各支店へ指示を出します。

そして大切なのが、災害時に機器を上手に使えること。導入間もない頃、全社の不要書類廃棄の回収車運行時に、店舗間の連絡



災害対策本部の本店基地局に設置された mcAccess e。今後はメール機能の利用も考えているそうです。

用として mcAccess e を試用しました。この時は、使い方に不慣れな面がいくつかありました。これからは、防災訓練はもとより、普段から mcAccess e をテスト使用する機会を意図的に設けて、使い慣れていきたいとのこと。

自前の情報通信網を確立し、顧客サービスや危機管理に上手く使いこなすことで、日々進化、躍進するスルガ銀行。将来的には、ATM搭載の移動窓口車、アクセスビーグルにGPS機能を付加し、災害時の入出金はもちろん、犯罪抑止に利用することも検討しているそうです。



スルガ銀行本支店の位置が一目でわかるエリアマップ

POINT

●無線従事者の配置が不要。電波法の手続きも軽減

他の一般業務用無線と異なり、無線従事者の配置が不要。電波法検査、認定点検もありません。

●店舗拡大に伴う広域での使用が可能

全国広域通信網で通信OK。デジタルならではのクリアな音声。秘話性も優れています。

●状況や目的に応じて多様な通信が可能

本部からの一斉通信、店舗間のグループ通信、個別通信と使い分けができて便利です。